

## 2. まちの利用特性を抽出する

## 第1回ワークショップ

※利用者の視点で、まちのどこが利用されたり通行されたりしているのかを抽出します。

### ■ 第1回ワークショップを企画しよう（実行委員会）

第1回ワークショップでは、まちの利用者（地域住民や観光客など）が対象地域のどのような施設や経路をよく利用しているのかを明らかにします。

また、地図を使った図上シミュレーションを行い、まち全体の利用しやすさ向上の改善アイデアを抽出します。まちの様子をイメージしやすくするために、先ほど抽出した施設や経路を取り入れてエリア内で楽しく一日を過ごすスケジュールとルートを考えます。

#### ①ワークショップ開催日時の決定

できるだけ対象地域のワークショップ参加者が参加しやすい曜日や時間を設定し、事前に日程の調整を行います。

#### ②参加人数の予測とPR

地域の規模などから参加人数を想定し、各団体、個人にワークショップへの参加の呼びかけを行います。幅広く意見を聞くため、参加者の年代や性別等が偏り過ぎないようにバランスに気をつけましょう。女性や子どもの参加も大切です。

なお、ワークショップ参加者には、その後の第2回ワークショップ（まち歩き調査）や第3回ワークショップにも通して出席してもらいます。参加者が決まったら名簿を作成します。グループにはできるだけ様々な特性の人で構成されることが望ましいため、あらかじめグループ割をしておくとい良いでしょう。1グループの人数は6～10名くらいが適当です。

ワークショップの参加者呼びかけ先

- ・ 行政の担当者
- ・ 高齢者や障害者、観光ボランティア、まちづくり団体等各団体組織
- ・ P T A、町内会の役員など
- ・ 店主や企業など
- ・ 回覧板やチラシなどによるPR

#### ③会場の手配

予測された参加人数から会場の手配をしましょう。車いすの人等、ワークショップ参加者が利用しやすい設備かどうか（エレベーター、多目的トイレの有無等）注意すると良いでしょう。

当日はグループごとに地図を広げて作業します。新聞の見開き（A0サイズ）程度の地図が広げられる機が必要です。

## 2. まちの利用特性を抽出する（第1回ワークショップ）

### ④道具（筆記用具など）の手配

第1回ワークショップでは、地図に透明ビニールシートをかぶせ、シールやふせんを貼ったり、書き込みをしたりします。これらの作業に必要な道具を準備しましょう。

準備するもの

- ・ 油性マーカー（多色セット）
- ・ 丸シール（赤・青・緑・黄・白）直径8ミリ程度
- ・ ふせん
- ・ サインペン
- ・ ボールペン、シャープペンシル
- ・ はさみ
- ・ セロハンテープ
- ・ 地図（※）
- ・ 透明ビニールシート（※）
- ・ 名札と台紙
- ・ ベンジン または アンメルツヨコヨコ  
（ビニールシートに書いた油性マーカーの修正用）
- ・ ティッシュ
- ・ デジタルカメラ（記録用）



### ※地図とビニールシートの用意

地図は「都市計画図」を市役所で手に入れるとよいでしょう。

地図のサイズはA0程度で、枚数は各グループに1枚ずつ必要です。

モデル地域がすぐわかるように、範囲を太線で囲っておきます。

また、主要施設の場所がすぐわかるように、あらかじめ名称を書き込んでおきます。

ビニールシートはホームセンター等で購入できます。テーブルクロスや農業用として販売されている薄いビニールシートでよいでしょう。用意した地図を覆うことができるサイズのものがグループ数×3～4枚程度取れる長さ購入します。

ワークショップの前に、地図より少し大きめに切り分けておきます。

### ⑤ワークショップの役割分担

スタッフは、全体の進行役に1名、グループごとのまとめ役としてテーブルマスターを各1名決定し、当日の流れを把握しておきましょう。その他、受付係や写真記録係などを決めておきましょう。またテーブルマスターを補助するサブリーダーも各グループにつくとよいでしょう。

### ⑥配布資料の準備

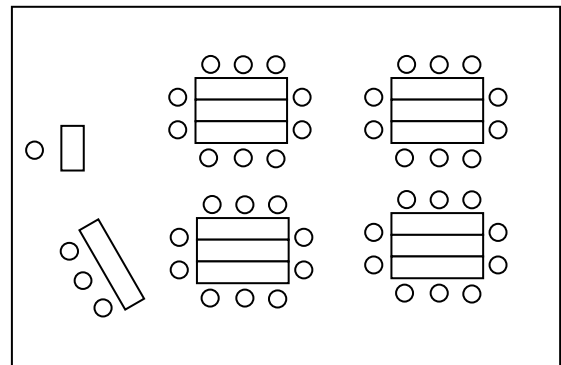
参加者への配布資料を必要部数用意します。

「モデル地域内利用シーン調査票(11頁)」「一日のスケジュール表」などをつくります。

### ⑦当日の会場準備

- ・ ワークショップの進行は実行委員会が中心になって行います。
- ・ 当日スタッフはワークショップ開始前に集まり、進行について最終確認の打ち合わせを行っておくとよいでしょう。
- ・ 参加者に会場入口がわかるように要所に会場を知らせる貼紙をしておきます。
- ・ 会場の机をつなぎ合わせて作業のしやすいスペースをつくります。
- ・ 各机のグループ名がわかるよう表示しておきます。
- ・ 各グループに地図、透明シート、筆記用具、名札などを配っておきます。
- ・ 透明シートを地図にかぶせたら、地図の角の位置のマークと、グループ名の書き込みを行います。
- ・ 入口付近に受付を設置し、出席の確認や資料やお茶の配布を行います。
- ・ 受付を済ませた人を各グループのテーブルへ誘導し、名札に記名してもらいます。
- ・ 参加者が緊張しない雰囲気を作ることも大切なので、作業でお願いできることは参加者と一緒に進めるのもよいでしょう。

ワークショップの会場レイアウト例



## 2. まちの利用特性を抽出する（第1回ワークショップ）

### ■ 第1回ワークショップをすすめよう

第1回ワークショップでは、地図を使ってモデル地域内のよく利用する場所や経路を明らかにする作業（ワーク1）や、モデル地域内で楽しく一日を過ごすスケジュールとルートについて考えるシナリオ作成（ワーク2）、そしてシナリオの図上シミュレーション（ワーク3）といったグループワークを行います。

まずは取り組みの趣旨や今後のスケジュール、当日のスケジュールや作業内容について全体説明を行います（30分程度）。次に、各グループのテーブルマスターの進行でグループワークを進めます。ワークに入る前に、グループ内のメンバー同士で自己紹介する時間を5分程度取ります。

グループワークの時間配分は、ワーク1に1時間程度、ワーク2に30分程度、ワーク3に30分程度が目安ですが、グループの人数が多い場合等は

各ワークの時間を長めに取るとよいでしょう。また、必ず途中で休憩時間を取るようしましょう。

全体進行役の人は、各グループの作業状況を見ながら、「10分前なのでそろそろまとめに入ってください」など、アナウンスをいれましょう。

また、グループ発表は1グループ5分程度とし、時間内で発表をしてもらうため、キッチンタイマーなどを用意し、発表が延長しすぎないように注意して進進しましょう。

#### スケジュール例

〔1グループ6～8名×4組の場合〕

- 13:00 受付
- 13:15 開会・挨拶
- 13:20 趣旨・今後のスケジュール
- 13:30 ワークショップの説明
- 13:40 グループワーク
  - 自己紹介
  - ワーク1（1時間程度）  
（10分休憩）
  - ワーク2（30分程度）
  - ワーク3（30分程度）
- 15:50 グループ発表
- 16:10 閉会



## ワーク1 よく利用する場所、移動経路、移動拠点の抽出

### ①対象地域内利用シーン調査票の記入

参加者が日頃よく利用する場所や経路を明らかにするために、「対象地域内利用シーン調査票」を各自記入し、対象地域内でよく利用する場所、その利用頻度や移動手段、利用していて気になることや良いと思うことをそれぞれ整理します（作業時間5分程度）。対象地域内利用シーン調査票は、対象地域の範囲がよくわかるように地図をつけ、地域内の主な施設がわかるように地図上に施設名を記載し、種別（病院、学校、コンビニ等）によって異なる色を付けておくとよいでしょう。

#### 対象地域内利用シーン調査票で聞く項目

- よく利用する所（記述例：ピオス通り商店街）
- 利用目的（記述例：買い物）
- 利用頻度（選択肢：週に数回・月に数回・年に数回）
- 移動手段（選択肢：徒歩・自転車・自家用車・バス・タクシー）
- 気になること・良いこと（記述例：駐輪場がわからない）

モデル地域内利用シーン調査票

赤枠で囲んだエリア内の施設・場所のうち、よく利用する所について、地図に番号(①②③...)を書き込んでください。  
また、地図におとした番号と対応するように、表に「行き先・場所」「目的」「利用頻度」「移動手段」「気になること・良いこと」を記入してください。

班	性別	男・女	居住地	
	年齢	代	勤務地	
行き先・場所	目的	利用頻度	移動手段	気になること・良いこと
例 新町商店街	買い物	週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	路上駐車が多い
①		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
②		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
③		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
④		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
⑤		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
⑥		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
⑦		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
⑧		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
⑨		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	
⑩		週に数回 月に数回 年に数回	徒歩・自転車 自家用車 バス・タクシー	

凡例

- スーパー、コンビニ
- 病院・診療所
- 学校・保育園
- スポーツ施設
- 郵便局
- 銀行・金融機関
- 官公庁・役所(県民局、裁判所、法務局等)
- 文化施設
- P 駐車場

## 2. まちの利用特性を抽出する（第1回ワークショップ）

### ②よく利用する施設の地図への書き込み

グループ全員が対象地域内利用シーン調査票に記入できたら、各自が記入した内容をグループで一枚の大きな地図に整理していきます。

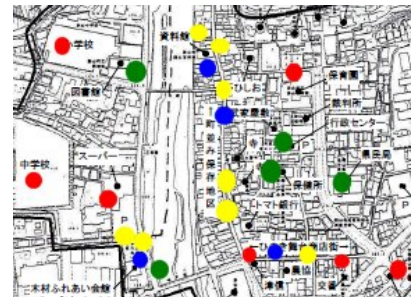
地図の上に透明シートを重ね、油性マーカーで地図の四隅をシートに印付けして位置を合わせます。

調査票に記入した「よく利用する施設」の位置に各自シールを貼っていきます。シールは施設の利用頻度によって下記のとおり色分けをしておきます。自分がよく利用する施設以外にも、観光客がよく訪れている所や、駅・バス停・駐車場といった移動拠点となる施設・設備もチェックしていきます。



例えば・・・

- |                 |   |        |
|-----------------|---|--------|
| 週数回行くところ        | ⇒ | ● 赤シール |
| 月数回行くところ        | ⇒ | ● 青シール |
| 年数回行くところ        | ⇒ | ● 緑シール |
| 観光客をよく見るところ     | ⇒ | ● 黄シール |
| 移動拠点（駐車場・駅・バス停） | ⇒ | ○ 白シール |



### ③よく利用する経路の地図への書き込み

②の作業シートの上に、もう1枚透明シートを重ね、同様に四隅に印をつけ準備します。次によく利用する「移動経路」を油性マーカーで地図に各自書き込みます。

観光客がよく利用するルートを黄色マーカーで記入します。その他は各自好きな色で書き込みます。

透明シートに書き込んだライン等は消すこともできるので失敗を気にせずどんどん書き込みましょう。

全グループの作業が完了したら、グループごとにどのような結果になったか簡単に発表しましょう。



④全グループのシートを重ねてみる

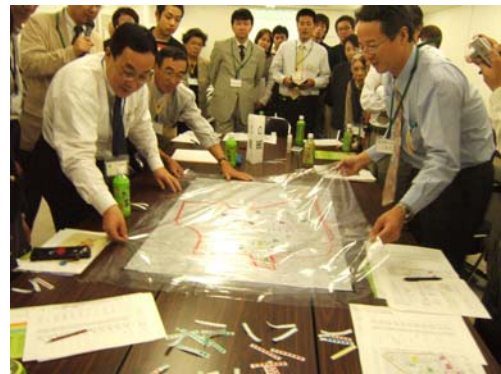
全グループの作業シートを重ねあわせてみます。

よく利用する「施設」と「経路」の全体的な傾向が浮かび上がってくるので、どのよう  
に  
関係しているのかをチェックします。

また、その上にもう1枚透明シートを置き、重  
な  
った施設や経路を写します。

丸シールが集中している場所を囲み、全体的に  
利用の最も多い移動経路は赤の実線、次に多い  
経路は赤の点線、観光客の利用が多い経路は黄  
の実線等で書き写していくと、そのまちの主要  
な施設と経路が抽出されます。

壁に貼り付ける、空いた机に置くなどして、休  
憩時間にみんなが見えるようにしておくとい  
い  
でしょう。



## 2. まちの利用特性を抽出する（第1回ワークショップ）

### ワーク2 シナリオ作成～連続的な「まち」の利用を考えよう～

まちの様子をイメージしやすくするため、エリア内を歩いて楽しく過ごす一日（または半日）についてみんなで考え、シナリオを作成します。シナリオ作成の手順は下記のとおりです。

また、必ずシナリオに盛り込んで欲しい行動等（「トイレに行く」「昼食をとる」）は必要条件として設定し、必ず反映させるように呼びかけます。



#### ① 登場人物を決める

高齢者・障害者・子ども連れ・地元の人・観光客など、どのような人たちの目線でまちの利用について考えるか、グループで登場人物を決定します。

#### 登場人物の例

- ・地域で暮らしている高齢夫婦
- ・ベビーカーを押す母親と妊婦
- ・視覚障害者とガイドヘルパー
- ・観光にやってきた中高年夫婦
- ・車いすの祖父と小学生の孫
- ・外国人の旅行者

などなど・・・

#### ② ルートなど、行動計画を考える

ワーク1であがったよく利用する施設や移動経路を参考に、登場人物の移動ルートや立ち寄る施設、時間配分、季節、天気などをグループで自由に考え、行動計画をスケジュール表に書きとめ、必要条件を満たすことを確認しながらシナリオを組み立てます。

① 若い世代で、  
② 高齢者（車いす）乗車  
③ 小学生の子  
④ 在籍の区民（車いす）  
⑤ 秋 ⑥ 平日 ⑦ 休日

( )班 一日のスケジュール表

時間	シナリオ設定時間	場所	行動	気になること
10:00				
10:30	10:30 10:40	本館 人民医院	車いす利用に歩いてく	
11:00	11:00	人民医院本館		
11:30	11:40	郵便局	公館で利用開始	
12:00	12:00	銀行	食事 昼食	
12:30			食事	

#### 必要条件の例

- ・3箇所以上の施設に立ち寄る
- ・どこかで昼食をとる
- ・トイレに2回以上行く
- ・途中、2箇所で休憩する

などなど・・・



作成したシナリオの一例

季節：6月末の天気の良い休日

登場人物：子供(3歳) お母さん お母さんの友人(観光) 元気な老人(おじいちゃん)

- ① 10:00 駐車場に車をとめトイレをすませ、出発
- ② 10:30 お寺でハスの花を見る
- ③ 11:00 保育園で子どもを遊ばせる
- ④ 11:30 武家屋敷見学 トイレ利用
- ⑤ 12:00 ろまん亭で食事 トイレ休憩
- 13:00 町並み見学・お買物
- ⑥ 13:30 中橋で風景を楽しむ 子供は鯉を橋から見る
- ⑦ 14:00 郷土資料館見学
- ⑧ 15:00 駐車場に戻る
- ⑨ 車移動
- ⑩ 15:15 木材ふれあい会館見学
- ⑪ 16:00 終了



## 2. まちの利用特性を抽出する（第1回ワークショップ）

### ワーク3 図上シミュレーション

シナリオができれば、地図に透明シートを重ねてルートを書き込みながら、シナリオにそった行動のシミュレーションを地図上で行います。

作成したシナリオでまちを歩いたと想定し、現状が気になる点等をふせんに書き込みながら整理します。「気になる点」などは次回のまち歩き調査で詳しく調査を行いましょう。



例：〇〇施設には\*\*\*があるので便利  
△△△通りは車いすでは通りにくい  
□□エリアに公衆トイレがいくつあるか

### グループ発表

各グループで、完成したシナリオと地図をもとにグループ発表を行います。どのようなシナリオを考えたか、どんな意見があがったか、次回のまち歩き調査で注目したい点など、各グループ5分以内で発表します。

